

はばたくなら ⑥⑦

自然体験や食育活動を通して
豊かな心と感性を育む
～温かな地域の方との交流の中で～

取組について

■本園は田原本町南部の国道24号線と寺川の間であり、周囲には住宅地と豊かな田園風景がバランスよく広がっている。地域住民の教育への関心が高く、子どもたちに豊かな体験をと、農業体験や園行事運営に積極的に関わってくださる。コロナ禍においても、内容を工夫しながら交流を続けてきた。

年長児クラスは、男児9名 女児7名 計16名である。入園前からコロナ禍により様々な制限があった為、テレビや動画視聴をして過ごし、戸外で遊ぶことが少ないなど、生活体験が不足しがちな傾向が見受けられる。

■様々な体験や経験が不足しているであろう子どもたちに、直接体験やいろいろな人との関わりができる機会を特に大切にしたいと考えた。そこで自分たちの住む地域の豊かな自然環境に目を向け、この地域ならではの様々な体験を通して、豊かな心と感性を育み学びを広げていきたいと考える。

取組を通して

地域の豊かな自然体験の中で・・・

自然の中には、子どもたちが「やってみたい」と興味をもったり、「どうして？」と疑問に思ったりする、魅力的な素材・環境が沢山ある。地域の協力を得て、豊かな自然環境を生かして様々な体験ができたことで、幼児が心を動かし、自ら関わろうとする姿に繋げることができた。

また、一日の体験活動で終わるのではなく、体験の中で芽生えた自然への興味がより深い学びになるよう、自園での教育活動の展開を試みた。幼児の「なぜだろう」「もっと知りたい」という思いが膨らむようにするために、教員がすぐに答えを出すのではなく、自ら調べたり、試したりする場面を作り、自らの力で「分かった！」と気付けるように環境構成をすることで、育苗見学から自分たちのバケツ稲栽培、バケツの中で見つけた不思議な生き物へと学びが広がったと考える。

このような豊かな体験ができる恵まれた環境や地域の方々へ感謝し、今後も地域と共に、園児の豊かな心や感性を育み、自ら学ぶ力につながる体験を積み重ねられるように取り組んでいきたい。

実践事例① 多地区交流会

幼児のつばやき・気付き

【ねらい】 多地区の地域の方々と触れ合い、親しみを感じながら、地域の特産物であるお米や小麦についての興味・関心を広げる。

地域の方

4月28日

農作物について教えてもらおう

「玄米」の皮をむくと「白米」。色が違うね。この粉は「ぬか」っていうんだね！



お米・小麦についての話



これは田んぼで穫れたお米です。この稲一束で、お茶碗一杯分ぐらいだよ。

ハウスでお米の赤ちゃんを育てているよ。育苗箱っていうんだ。



育苗ハウス見学

小麦の穂ってチクチクするね。



小麦畑見学

ハウスの中は暖かいね。

地産小麦粉でピザ作り



農機具見学

すごい！お水がでてきた！これなら肥料や薬を撒くのが楽だね！



ピザおいしいね！

こうするときれいな丸い形になるよ。

わーい！動かしてみたいな♪

地域のおばさんたち優しいな…

よりつながりを深めるために

「自分達が普段食べている物が」とのよりにして作られているのか、実際に目で見て、作って食べて、とても素敵な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。ピザの生地を自分で伸ばした事や、四種ミキサーに乗った事、ピノールハウスのたこさんあってびっくりした事をたくさん話してくれました。頂いた米粉クッキーも「サリサク」とても美味しかったです。ありがとうございました。

幼児が学んだ内容のフィードバック

【幼稚園】

活動内容を発信し、体験の中での幼児の学びを知らせる

【地域支援者】
“子どもたちの育ちにつながってよかったな”
“またしてあげたい”

『ありがとうカード』の活用

- ・活動の様子の発信
- ・保護者、幼児からのメッセージの記入

園教育への理解

【保護者】
“家ではできない体験をさせてもらえてありがたいな”

保護者からの感謝の気持ちを届ける

【幼児の姿から考えられること】

- ・実際に作物や農機具に触れたり、地域で穫れた食材を使ってピザを作ったりした経験は、園や家庭ではできないことばかりで、楽しみながら自ずと興味・関心をもつ姿となった。帰りには「明日もここに来たい」とつばやく姿があり、普段できない新鮮な体験や地域の方々の温かな関わりが嬉しかったことが分かる。
- ・その後の家庭の様子を聞くと、「料理の手伝いをしたい」と言うようになっていたり、田畑を見て「お米や」「これは小麦」など、今まで意識していなかった作物に目を向けたりする姿があった。多地区交流会での経験がきっかけとなり、料理や作物に対しての興味が広がったことが考えられる。

実践事例② バケツ稲栽培

幼児のつばやき・気付き

環境構成・配慮

【ねらい】 バケツ稲栽培を通して、お米について興味・関心を膨らませ、友達と一緒に考えたり試したりしようとする。

6月9日

バケツ稲植えに挑戦

多地区交流会での体験をきっかけに、バケツ稲栽培に挑戦する。

バケツ稲苗植え



ぬるぬるするけど気持ちいい♪
赤ちゃん苗を植える為にしっかりとまぜよう。

6月23日

ハウネンエビ発見！

何かいる！何かの
赤ちゃんかな？

なんでここにいるの？



生き物発見

あ！わかったこれや！
ハウネンエビやって。
エビやったんや。

絵本で調べよう



バケツに植えた苗を日々観察する中で、水中に見たことがない生き物がたくさんいることに気付き、自分たちで調べようとする。教員が『田植えと育ち』という絵本を見せると、その本からよく似た生き物を見つけ、「ハウネンエビ」だと正体がわかった。エビの仲間ということに驚いて、「でもどうやってここに来たんかな？」とさらに疑問がわき、バケツの中をのぞいたことで様々な発見があった。

10月19日

子どもたちの考えた方法でやってみよう！

【教員の願い】
稲刈りと脱穀をした後、粃摺りの方法を子どもたちと一緒に考えたり試したりしたいと考え、「どうやって皮をとろうか？」と投げかける。

石で叩く？

金槌でトントンする

手で剥いてみよう！

すり鉢使ったらいい
かもしれない！



粃摺り体験

金槌でも
できたけど、
時間がかかるな。

すり鉢とボールを使うのが一番早く
てやりやすいわ！



【石・金槌・すり鉢・すりこぎ・ボールを用意する】

【幼児の姿から考えられること】

・バケツに苗を植える中で、泥の感触や冷たさ、匂いなどを感じたり、「ハウネンエビ」という生き物に出会ったりすることができた。興味をもったことについて関係する絵本を読み、友達と一緒に考えたり対話したりし、調べて分かった嬉しさから、その後も不思議に思ったことがあると、「調べよう」「やってみよう」と進んで取り組むようになっていく。実体験の大切さを改めて感じた。

・稲刈り・脱穀・粃摺りを体験し、粃摺りではどのような方法で殻をむくか考えを出し合い、色々な方法で試した。現在は様々な作業が機械化されており、精米済みのお米も手軽に手に入るが、このような体験をすることで、お米がどのようにしてできていたかを確認に「分かる」ことができた。また、様々な作業の大変さを感じていたが、おにぎりパーティーでみんなで食べることを目標に、白米にするまで頑張ろうとする姿があった。給食を食べる際には「このご飯と、あの お米一緒やな。」とつばやき、残さず食べる姿があり、体験したことが幼児の中でつながっていくことを感じた。